

芦安小中学校 学校関係者評価書(前期)

令和7年9月9日(火)

芦安中学校区学校運営協議会作成

第1回芦安地区学校関係者評価委員会(第2回芦安中学校区学校運営協議会)

実施日:令和7年9月9日(火)

会場:南アルプス市立芦安中学校 多目的室

〈芦安中学区学校運営協議会委員〉

会 長	伊東 隆雅(芦安地区保護司)
副会長	金川 健太(芦安小中学校PTA会長)
委 員	清水 実(芦安子を守る会会長)
委 員	功刀 秀樹(南アルプス市みんなで支える芦安協議会代表)
委 員	倉園 光代(主任児童委員)
委 員	小林 雅人(元芦安中学校校長)
委 員	岩間 修司(芦安窓口サービスセンター長)
委 員	内藤 薫(芦安地区育成会代表)
委 員	名取 大介(学校応援団コーディネーター)
委 員	川手 美智子(芦安小中学校PTA副会長)
委 員	齋藤 秀平(芦安地区地域コーディネーター)

〈学校職員〉

小学校	松田 晃一(芦安小校長 芦安地区学校運営協議会委員)
	齋藤 知美(芦安小教頭)
中学校	大石 浩雄(芦安中校長 芦安地区学校運営協議会委員)
	足達 敏弥(芦安中教頭)

〈助言者〉

南アルプス市教育委員会	内藤 大輔(学校教育課課長)
	上野 中(学校教育課指導監)
	岡田 幸久(学校教育課指導主事)

1. 学校側からの提案した内容

- ・ 芦安小中学校前期学校評価結果と今後の学校運営について

2. 検討していただいた主な内容

- ・これまでの取組や活動, 今後の教育活動について

3. 学校関係者評価委員の意見の集約

(1) 学校経営・学校運営

- ・小中全ての活動が, 学校長が示す学校教育目標の達成と児童生徒のためにすすめられている。
- ・持続可能な学校づくりについては, 広く意見を聞くための会議の必要性や協議会など住民が主体となって動くことも必要ではないか。
- ・近年の芦安小中学校は、児童・生徒の確保なども大きな課題である。これについては、南アルプス市教育委員会などと連携して今後の市の教育について長期計画を作成してほしい。
- ・授業を更に魅力的なものとするために, 研究や研修を継続して進め, 子供が主体の授業づくりに努めてほしい。
- ・「報告・連絡・相談」の徹底が、先生方の業務改善や学校運営の円滑化にもつながると思うので、「報告・連絡・相談」をしやすい環境づくりを継続してほしい。

(2) 学習指導

- ・教師の自己評価では, ICT機器を日常的に使用している割合が前回よりも高くなってきていることがわかる。継続した取組をお願いしたい。
- ・家庭学習の定着については、市も推奨しているICT機器の更なる活用をすすめるなかで、家庭と連携し工夫をしながら進めてほしい。

(3) 生徒指導

- ・生徒指導においては、大規模な学校に比べてケアが行き届いていると感じる一方で、児童生徒の家庭環境や理念にも関わるため、学校だけで完全に改善することは困難ではないか。学校と専門機関が連携を深めることで、家庭状況の改善が進んでいってほしい。
- ・「働き方改革」を推進していくことで、先生方がゆとりを持って仕事ができるように継続した取組をお願いしたい。そうすることで日々の児童生徒の様子がゆとりを持ってじっくりと見守り把握することができるようにしてほしい。

(4) 保護者・地域との連携

- ・保護者と地域の連携はとても重要で、意見交換をする場や機会をつくることはできないか。
- ・今後更に保護者と地域の連携について工夫や改善をしていくことが必要ではないか。

(5)学校の特色ある取組

- ・豊かな自然を利用した「体験活動」や「英語活動」は芦安小中学校の特色であり魅力であるからこそ継続して欲しい。そのため活動や取組のねらいや目標を全生徒で共有することも大切だと思う。
- ・子どもが親の休日に合わせて学校を休める,こんなことを取り入れられたらどうだろうか。これにはいくつかの課題もありますが,全国では,既に取り入れて運用している学校もある。
- ・自然体験活動や登山等のサポートを頂いている,芦安ファンクラブの方々の支援に頼りすぎることなく教職員も積極的に学びを深め専門性を高めていくことも必要ではないか。

(6)その他、気づいた点など

- ・芦安中に進学する児童の減少について,分析をしたらどうか。
- ・小規模校ですがみんなで頑張って素晴らしい学校にしていきましょう。